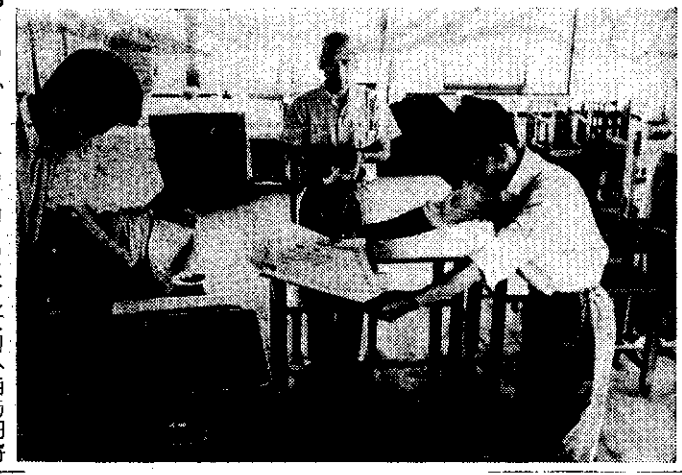
小幡小中のPTA
総理大臣から表彰される



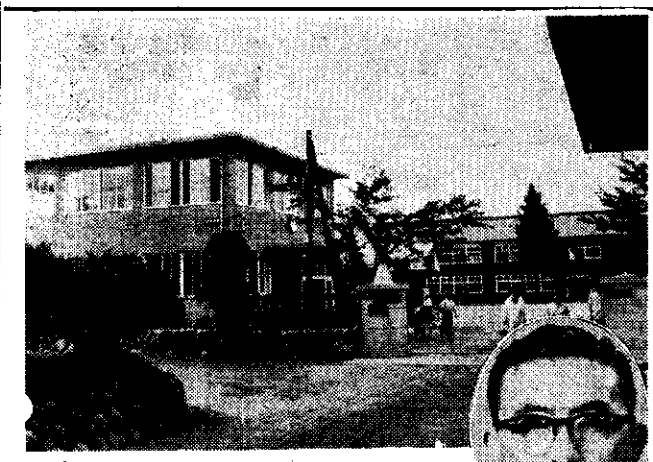
小幡小中学校PTAが、P関A活動として町へ百万円寄附した功績によるもの。

表彰状は、八月一日に役場で、松浦会長の手へ伝達されました

総理大臣から優状を授与されました。

これは、三十五年に同小学校の給食室を建築する際、同PT

工場＝梅沢ベル＝紹介（2）
新製品を売り出す
その名は「カウペット」



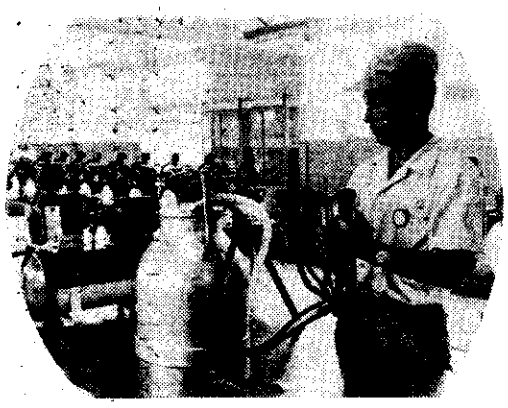


写真　（上）は工場の一部と梅沢社長
（下）は新製品のカウペット

「梅沢のベル」では国内はもちろん海外においても有名です。正しくは「株式会社梅沢製作所　群馬工場」と、長い名称です。

当町が、大字福島の旧福島小学校跡へ富岡市から誘致したものです。

同製作所の歴史は古く、大正三年に先代梅沢陣三郎氏（現社長梅沢東吉氏の尊父）が、東京神田に工場を設立したのに始まっています。以来、小型撮影機（一六ミリシネカメラ）からはじまって、鉛筆削り器、ミシン部品、その他多種なものを手がけ、大正十四年に至つて、私たちが現在使つているような自転車のチエーン全ケースの製作に成功、その専門メーカーとなりました。昭和十一年ごろから戦時に及んでは、軍需品の生産で大いにその地歩を固め、昭和二十年に、軍の指示によつて、旧福島町君川に工場を疎開してきました。この間、初代梅沢陣三郎社長は死亡しました。

梅沢ベルの名声を海外にまで高めたのはこれからで、終戦直後の混迷期を、いち早く自転車ベル生産に切りかえたことにはじまります。それより、工場の近代化を図り、ベルの研究と、技術の向上に全力を傾注して多種多様のベルを完成、東南アジアをはじめ中近東、中南米諸国へ輸出、外貨獲得に貢献をはたしています。

昭和三十四年十一月六日、不慮の火災によつて主軸工場を焼失、この再建を契機に、現地への誘致が決定しました。そのとき、三十五年三月十四日です。以来、現在地に新工場を建築、同年十月に落成し、万全な生産態勢が固められました。

現在、工場敷地三、五九二坪建坪一、〇九九坪を有し、従業員（職員、技術者、工員合わせて）二三〇名がオートバイブレーキ、バックミラー、自転車用ベル、自動車用ステアリング、ミルカーの生産にあたつています。

このなかで、最も新しく、注目すべきものはミルカーです。その名を「カウペット」と言います。梅沢技術陣の三年間の研究がみのり、ついに大量生産化に成功し、ことしの七月から一般への販売を開始しました。なんといつても、他に市売されているミルカーより五万円も安く（七万円）、能力も高く、乳質も向上するというから、酪農家にとつては大きな福音です。工場では、これをもつて地元酪農家へ奉仕できると「カウペット」の将来に期待しています。

他に東京千代田区に本社があり、江戸川区に小松川工場があります。

※この工場紹介は第一回を行なつてからしばらくと切りれていたものです。順序は不確定です。

台風の被害を最少限にするために

台風の季節になりました。台風の昨年ちゆうの来襲件数は一〇で例年に比べ少なかつたが、それでも死者二一九人、負傷者五、一七〇人、建物全壊一四、七五八棟、半壊四六、八四六棟被災世帯数約二三万世帯、被災者数約九三万人と大きな被害をもたらしています。

このような台風の被害を最少限に食い止めるためには、事前の準備はもちろん大切ですが、来襲してからも次のような注意を怠らないことです

① 風で家がきしんだりする場合は、倒壊するおそれがあるから、適当な場所にすぐ避難すること。

② かわらやトタンがはがれた場合、屋根に上がつて修理することは危険である。必ず風がおさまつてから修理するようにする。

③ 不用不急の外出をしないこと。やむを得ない外出のときは、必ず帽子をかぶり上着を身につけるようにする。

④ こどもの行動に注意すること。浸水や河川の出水があると、こどもは珍しがつて見物に出かけるが、風雨が強いため川に転落したり、深所にはまりこんでできて（溺）死するなどのこともある。

⑤ 断線に注意する。電線がたれ下がつているときは、素手でさわると感電死することもある。断線を発見したときはなわ張りその他の危険表示をしたうえで、もよりの電力会社か交番へ届け出ること。

⑥ 堤防の決壊やがけくずれなど、人の生命や身体に危険が迫つているときは、同じく警察や役場へ連絡する。

架け越し成る
小幡簡易水道

小幡簡易水道の水道管架け越し工事を行ないました。

戦場地内の雄川の底を通していた水道管があらわれて破損の危険があり、また、直角に伏越されていた関係で通水に難があるのではないかと考えられたためです。

この工事では、水道管を雄川の上に架け越して、橋を兼用することにしました。橋長は二十メートル、幅員一・六メートルで、工費は八十万円。田村組の請け負いで、七月十五日に完成しました。

＝写真（上）がその橋

下刈機を購入
かまの四倍は可能

町では、町有林育成のため大きな力をそそいでいますが、このほど下刈り機「パワーサイセ」を二台購入し、能率をあげています。

このパワーサイセは背負い式のもので、背に二サイクル、五〇CCの発動機を背負い、さきの先に丸のこぎりの刈り取り装置がついています。下刈り能力は、熟練してくれば一人一日四反歩くらいといわれ、現に三反歩ぐらい下刈りした人もいるようです。現在、町のほかに森林組合が一台、個人が九台使用していますが、機械能力いつぱいに使いこなせるようになれば、人手不足の解消や経費の節減となり、森林行政の一つの力となりましよう。一台の価格は五万二千円。

＝写真は、パワーサイセによる下刈り作業、町有林菊が池にて

梅沢が優勝
夏の野球大会で

甘楽町体協主催による夏の野球大会は、七月二十二日、二十九日の二日間にわたつて行なわれ、梅沢チームが優勝しました

二日目の二十九日は、二十二日に勝ち残つた役場、飯塚、ヤンガース、梅沢の準決勝、決勝戦が行なわれ、結局梅沢チームがヤンガースを12対7で破り、優勝しました。対戦成績は、次のとおり。

準決勝
第一試合
梅沢11――2飯塚
第二試合
ヤンガース12――8役場

決勝戦
梅沢12――8ヤンガース

なお、準決勝戦で四本のホームランが飛び出したが、打者には柴山体協会長から賞金が贈られました。打者は次のとおり。

宮下（ヤンガース）1号、松井（役場）1号、2号、野本（役場）1号

吸いガラの用途

タバコの吸いがらをそのまま捨てるのは不経済です。これは空かんなどに集めておき、ある程度たまつたら、石けん水と一緒に煮てとかして、これをこした水を噴霧器へ入れて、油虫など害虫のいるところへかけると害虫を防除することができます

このときの濃さは、ミルクコーヒーのような色合いが適当です

また、吸いがらをそのまま便所のツボに投げ込んでも、うち虫の駆除になることはよく知られています。

便所の衛生上にも大いに活用いたしましよう。

小幡簡易水道会計
三十六年度

収入調定額	三、五五九、二六一円
実収入額	三、二六八、五八〇円
収入率	九一・八三％
支出総予算額	二、三二三、一〇二円
実支出額	一、二六七、九五七円
支出率	五四・五八％

差し引き残額二百万六百二十三円は三十七年度へ繰り入れ見込み。

この繰り越金のなかには、各自の布設工事負担金の超過分があつて、精算によつて各自に還付するはずの金があります。しかし、たまたま三十七年度で、戦場地内の水道管架け越し工事を行ないましたので、これを還付せず、工事費に充当しました

天引・金井簡易水道会計
三十六年度

収入額、支出額ともに十六万三千二百円で、残金はありません。

本水道では、三十七年度に全給水家庭に計量器を取り付け、断水なしの成果をあげています

9月の家庭メモ

食品　9月にはさんまが解禁になり、たくさんのさんま船が出航します。魚の値段もなかなかはりますが、さんまは秋の味覚の代表として栄養もたつぷりありますからせいぜい食べることにしましよう。もし、欠点いうならばビタミンBやCの少ないことですがゆずの汁をかけたり、大根おろしをそえれば、見た目も、味も栄養もよくなります。さんまは塩焼がいちばんですが、簡単な料理だけにとくに新鮮なものをえらびます。ピンとはりきつてきずがなく、目のきれいな、腹わたの出ていないものを買います。

住宅　建ててから15年以上たつた家では、台風がくる前に一度補強しておくと安全です。外見は何でもないようでも、土台が白ありに荒らされていて倒壊するという危険もありますから、柱の根つぎやくぎ打ちをしたり、針金でしばつておきます。

屋根でもつとも被害を受けやすいのは、軒場の部分ですが、トタンやスレートぶきは、いたんでいるところがあれば、斜めに板を打ちつけて止めておきます。かわらのずれているのはすぐ飛ばされますし、割れていると雨もりの原因になりますから若い人か専門家に頼んで点検しておきましよう。庭木では、植えてから10年以下のものはまだ根がはつていませんから、そえ木や枝抜きをしてやります。

9月の空相様は、残暑、台風と複雑ですが、中旬を過ぎるとめつきり秋の気配が濃くなります。体力の回復を心掛けるとともに、夏ものの始末や秋の準備を手ぎわよくいたしましよう。

また、老人の日、秋分の日を中心として、なごやかな家庭のレクリエーションを計画するのも楽しみなものです。

衣類　日ごろ洗たく機を使つている人も、これで来年まで着ないと思うものは、手でもみ洗いします。えりとかそで口には汗や油がしみこんでいて、取り出してみたら変色していたということがあるので、ていねいに洗つておくことがたいせつです。小さくなつた子供の洋服は、すそやそで口をほどいて、そのまま洗つてしまつておくと、来年着せるときに体に合わせて調節することができます。小さくなりすぎて、もう着せるあてもないけれど捨てるのは惜しいというズボンやシャツなどは、保育園へあげたらいかが。子供がよごしたときの着せかえ用の予備として喜ばれることでしよう。